

人文社会科学部では、市民のみなさまにもご参加いただける講演会をはじめ様々な活動を行っています。掲載している内容は多様な活動の一部です。興味を持った方はぜひ人文社会科学部ホームページをご覧ください。

◆前期公開講座

記憶との対話:ことばとイメージ

□平成30年6月上旬開講

人類はこれまで、個人の体験や地域の出来事をことばやイメージによって記録してきました。遺跡や芸術、歴史などの文化は、個人や社会、民族、国家の記憶を後世に伝えるためのひとつの有力な手段であったと見ることもできるでしょう。しかし同時に、過去を記録したそれらのことばやイメージが、常に実際に起つたことの忠実な記録や再現となっているかといえば、必ずしもそうとは言いきません。それら「記憶の痕跡」には、さまざまな歪曲や現代の受け手側による解釈の問題がつきまとることが知られています。

山形大学人文社会科学部には人間の活動や文化を研究する専門家が各分野、地域ごとに揃っており、日々学際的な研究を進めています。そこで本講座では、心理学、文学、歴史学、文化人類学、表象文化論の専門家が「記憶との対話」をテーマとして、人間の精神や文化をそれぞれの立場から分析します。言葉とイメージはどのように過去の記憶を留め、文化となるのか、またそれらは現代の我々との間にどのような対話(相互作用)を生みだすのか—これらの問いを通して、人文社会科学部の多様な活動内容と研究成果の一端をご紹介します。

◆ ジュリアン・シュー氏講演会

パリ大学ナンテール校からお招きした



ジュリアン・シュー准教授による英語講演「ベル・エポックの国際文化」が1月19日に開かれました。講演ではまず、19世紀末から20世紀初頭の西欧で、新聞や雑誌など定期刊行物による情報伝達革命が起つていていたことが指摘されました。続いてシュー氏は、記事の文面から広告の挿絵に至るまで、あらゆる情報が、複数の媒体によって模倣され、簡略化され、ときに粗悪なコピーを生み出しながら、ウィルスのように拡散する現象を Virality と名付け、これが20世紀以降のメディアの特徴であると説かれました。現代の YouTube などにも見られるこうした現象に、120名を超える聴衆が興味を持ち、英語での活発な質疑応答が行われました。

◎ 「法律・政治研究会」を開催

1月24日(水)、今年度の「法律・政治研究会」を開催しました。今回の研究会は、「グローバル・ガバナンスと人権－人身売買をめぐる東アジアと欧州における地域的取り組みを事例として－」と題し、中村文子准教授(国際関係論)から、世界における人身売買の現状とEUやASEANによる取組みの紹介と、「規範のライフサイクルモデル」(ここでは人身売買の禁止規範ないし被害者の人権を保護する規範がどのように形成され促進していくかについてのモデル)という観点からの分析が示されました。報告後は、参加教員から大変多くの質問や意見が出され、白熱した研究会となりました。



第45回模擬裁判公演について

模擬裁判実行委員会

第45代委員長 法経政策学科4年 黒沼 健郎

昨年の12月8日(金)9日(土)、山形市中央公民館を会場として、第45回模擬裁判公演「みかた～その病に責任はあるか～」を開催しました。

模擬裁判公演は昭和48年から山形大学の自主ゼミナールである模擬裁判実行委員会が主催となり、学生ならではの視点から刑事、民事、行政裁判とその時代に即した法律問題や社会問題を裁判劇として取り上げています。

準備にあたって、シナリオ作成やキャスト、音響照明などの活動だけでなく、当日配布されるパンフレットの作成や宣伝・広告活動など、公演に向けたすべての活動を学生が運営しています。

本年の公演では「刑事責任能力」をテーマに取り上げました。近年世間で再注目を浴びている刑事責任能力を争点とする事件で、事件の残虐さや被告人ばかりが注目されている現状に着目し、多角的な視点から物事を捉えることの重要性を模擬裁判劇で描きました。

当日は関係各方面への広範な広報活動のほかもあり、大学関係者や学生、一般市民の方々など、非常に多くの方々にご来場・ご来館いただき、「刑事責任能力」に関する法律知識と本質的な社会問題について知りたい方々、考えていただけきっかけになったのではないかと思っています。



人文社会科学部の
今を伝える

Agora

人文社会科学部ニュース<アゴラ>

"AGORA"とは、ギリシャ語で"広場"という意味です。

ふあんたすていっく!

「中心」に抗う大衆の文化

「ドイツ人」と聞くと、「真面目」「厳格」といったイメージが浮かぶかもしれません。しかしドイツ南部バイエルン州州都、「100万人の村」とも呼ばれるミュンヒエンの人びとはそのようないかめしいイメージに反して、とても陽気で親切です。その理由に、世界に誇るビールと、どんな趨勢にもなびかない「笑い」の文化があります。

私が研究している喜劇役者カール・ファレンティン(1882-1948)は、終生ミュンヒエンを離れることなく、ミュンヒエンの人びととその伝統に寄り添いながら、大衆と共に笑い合える喜劇を作りました。その数はなんと400作以上!死後70年が経過する現在でもその人気は衰えることなく、私たちは各メディアで彼の姿を観ることができます。

ミュンヒエンの伝統、それは近代化・グローバル化といった「中心化」への反抗心に根付いています。バイエルンは古くからベルリンとの違いを大切にしてきました。有名なサッカークラブ、FCバイエルンの『Mia san mir! (俺たちは俺たちだ!)』というモットーは、そのようなバイエルン独特の文化を土台にしたもので。この言葉にはどんな中心化にも抗う、バイエルンの人びとの矜持が感じられます。そして大衆の笑いはその最強の武器なのです。

文化とは、画家、音楽家、小説家など、一部の天才的人物によってのみ作られるものではありません。我々が生きている日常もまた文化であり、それは市井の人びとによって不斷に築かれているものです。グローバル化が叫ばれて久しい現代の日本を見つめ直すためにも、中心化を拒む周縁からの／への視点がこれからさらに必要になっていくでしょう。

グローバル・スタディーズコース 准教授 摂津 隆信

写真で教員の研究を
楽しく紹介するコーナー



ミュンヒエンの新市庁舎



カール・ファレンティン像



筆者が留学していたミュンヒエン大学

学部長あいさつ～学部の近況～

人文社会科学部長 清塚 邦彦

この4月で本学部は改組後2年目を迎えました。そのことに応じて、今年度の本学部では、新しい人文社会科学部のカリキュラム（課程）を履修する1、2年生と、旧来の人文学部のカリキュラムを履修する3、4年生とが共存することになります。

この3月までは、新課程に属する学生が取る科目のほとんどは基盤教育科目でした。開講されている専門科目の大部分は旧課程のままでしたので、改組の影響は旧課程の学生にあまり強くは意識されなかつかもしません。しかし、新課程の学生が2年次に進んだこの4月からは、開講される専門科目は大部分が新課程の科目に移行します。3、4年生はそれら一連の新科目の中から、旧課程の科目に該当するものを選んで履修することになります（今年の『開講科目一覧』には新課程の科目と旧課程の科目の対応関係が記されています）。ということで、おそらく3、4年生の多くは、今年度に入って初めて改組を実感しているのではないでしょうか。

わざわざ改組を行った背景にはいくつかの教育上の配慮がありました。一つは、学生が自ら課題を設定して解決に取り組むいわゆる「実践科目」が、大幅に増設されたことです（それらの一部は旧来の演習や実習と読み替えるものもありますし、そうでないものも、旧カリ学生は自由科目として履修可能です）。もう一つは、



語学教育の強化です。具体的には、従来は1年次に配置されていた英語の必修科目が、2年次以降にも増設されました。また、より本格的に語学力の強化を行うグローバル・スタディーズコースが新設されています。こうした変化に伴い、旧カリ学生も、従来なかった科目を履修できたり、海外研修の機会が増えたりといったメリットを享受できます。

こうした手直しと並行してもう一つ。新学部では、人文科学や社会科学を専門としているながら所属は他学部である先生方にも、これまで以上に、本学部の授業担当や卒論指導をお願いできるようになりました。山形大学では、すでに平成27年から、旧来の学部の仕切りを取り去って、全教員が学術研究院に所属し、その専門特性に応じて6つの学部のどれかで（場合によっては複数で）教育を担当するという柔軟な教育組織の構築が進められています。人文社会科学部への改組もそうした流れの一環であり、新学部は、本学における人文社会科学系の教育資源を結集して教育をより充実させることを大きな目標としています。

ナスカ研究所活動報告

人文社会科学部附属ナスカ研究所副所長 坂井 正人

ペルー共和国ナスカ市近郊における現地調査を平成29年8月～平成30年2月に実施しました。ナスカ台地を縦断する古道を調査するとともに、当時の居住地遺跡Estudiantesおよび神殿遺跡La Ventillaを発掘しました。

今年度は円卓会議をナスカ研究推進センター（小白川キャンパス）において2回開催しました。1回目（5月16日）の円卓会議にはナスカ研究所のメンバーに加え、村上達也准教授（米国テュレーン大学）が発表されました。2回目（1月31日）は芝田幸一郎准教授（法政大学）を招聘して実施しました。

また、ナスカ研究所主催の4つのイベントを開催しました。平成30年2月にはLuis Jaime Castillo教授（教皇庁立ペルー・カトリカ大学）をお招きして、「国際学術講演会：ナスカとモチ」（2月17日）を山形大学人文社会科学部で開催しました。また、国際フォーラムMonumentalidad y Poder en los Andes（アンデスにおけるモニュメンタリティと権力）（2月19日）を国立民族学博物館で開催しました。両者は山形大学と国立民族博物館の学術協定締結を記念するイベントです。平成30年3月にはPatrice Lecoq教授（パリ第1大学）を招聘して、「国際学術講演会：インカ帝国と石造建築物：チョケキラオ遺跡とエスピリトゥ・パンバ遺跡」（3月3日）を山形大学人文社会科学部で開催するとともに、キャンパスイノベーションセンター東京において「国際シンポジウムRutas e interacciones humanas en los Andes



映像文化研究所のこれから企み

人文社会科学部附属映像文化研究所 所長 西上 勝

人文社会科学部附属映像文化研究所では、映画研究部門と山形映像文化研究部門の二つの部門に分かれ、平成29年度においてもそれぞれ下に記しましたように、両部門独自の研究活動を継続してまいりました。新年度に向けては、平成29年度の研究経過に基づきつつ、その成果を適切な形態でお示すとともに、深化充実すべく研究を推進してまいります。今後とも引き続きご支援頂きますようお願い致します。

両部門の経過とこれからの計画については、以下に両部門長から詳しく紹介させて頂きます。

映画研究部門の活動

映画研究部門長 大久保 清朗

映画部門では、昨年度に発足した「アンドレ・バザン研究会」は、今年度から日本学術振興会の科学研究費助成（基盤B）が採択され、本格的に活動を始動しました。昨年度末に、会誌『アンドレ・バザン研究』の記念すべき第1号を創刊し、映画研究機関と映画研究者へ発送しました（この会誌は、希望者に無料配付され、各方面から反響が寄せられています）。それと同時に、京都大学で行われた「映画コロキアム」に、研究者代表である大久保ほか3名の研究会員が参加し、8月5日に青山学院大学で初の研究会を開催しました。現在、第2号の刊行に向けて作業を進めています。また、平成29年10月4日から6日にかけて、山形国際ドキュメンタリー映画祭にあわせて開催されたフィリピンとの他分野交流イベント「フィリピン・ウイーク」において、バナル・ディスカッション「フィリピン映画の現在 第3期黄金時代はいかにして到來した」を実施いたしました。



山形映像文化研究部門の活動

山形映像文化研究部門長 石澤 靖典

山形の地域映像文化を扱う山形映像文化研究部門では、山形国際ドキュメンタリー映画祭にて上映された「世界一と言わされた映画館 一 酒田グリーン・ハウス証言集」（企画・制作／山形国際ドキュメンタリー映画祭・監督／佐藤広一）の制作及びトークイベント（平成29年10月9日、於山形美術館）に協力し、戦後の酒田市において映像文化の発展に大きな貢献を果たした映画館である酒田グリーン・ハウスの意義を再検証する試みに参画しました。また平成28年に山形大学で開催したシンポジウム「近代都市の相貌 一 明治山形の写真・絵画・建築」の報告書を近日中に発行し、現在、研究所が中心となって進めている研究プロジェクト「東北地方における写真文化の形成過程と視覚資料の調査研究」の最新成果を公表いたします。さらに平成30年度には、大正から昭和初期にかけての東北6県の写真家及び写真館の活動を総合的に検証する試みとして、各県の美術館学芸員と連携し、これまで顧みられることの少なかった地方写真史をテーマとするシンポジウムを開催する予定です。



やまがた地域社会研究所の活動 —若い世代の視点を取り入れた地方創生—

人文社会科学部附属やまがた地域社会研究所 所長 是川 晴彦

やまがた地域社会研究所では地域の抱える課題の解決に向けた調査・分析を進めています。以下に平成29年度の特徴的な事業を紹介します。

1.国道347号線の通年通行による地域活性化効果の調査・研究

昨年度に引き続き尾花沢市・大石田町広域連携推進協議会から委託されたものです。通行量の分析、企業などからのヒアリングを通じて、冬期閉鎖されていた国道347号線の通年通行の効果や尾花沢市・大石田町の活性化に繋げる手法について研究を行っています。

2.キラリと光る地元企業の魅力発信プロジェクト

山形県村山総合支庁及び地元企業28社と連携した事業です。学生取材員30名が山形県村山地域のモノづくり企業の取材を通じて学生の視点から取材記事を作成し、企業のもつ魅力をFacebookで情報発信しました。約160本の取材記事を発信し、目標を上回る閲覧数を獲得しました。学生にとって地元企業の優れた技術や製品を知る貴重な経験でした。

3.山形県村山総合支庁の地域づくり活動調査研究事業の受託

中山町柳沢地区で活動する柳沢（やんぐさ）もりあげ隊の協力のもとで学生が実習を行いました。「ゆきまつり」に学生も参加しました。学生からは、「郷土愛に感激した」、「住民の方々との交流が楽しい」、「住民が楽しむことが最大の目的であることが分かった」等の感想が聞かれ、まちづくりの本質を知ると



人文社会科学部ってこんなトコロ!

大学の講義は、座って先生の話を聴き、レポートを書いて提出するだけ…なんて思っていませんか?人文社会科学部で出来ることは、それだけではありません!

一緒に学ぶ仲間や先生と意見を出し合い、自分の研究テーマについて発表したり、大学を飛び出して学外調査をしたり、留学やインターンシップに行ったりすることも出来ます。

※記載順 氏名 / コース / 出身高校 / セミ(法経政策学科生) / 課外活動



白鳥 景佳さん

人間文化コース 1年
山形県立鶴岡南高等学校
NPO法人 小さな天文学者の会

専門導入科目

専門導入科目・日本社会論の授業では、「世間」についての講義を受けた上で、学生達が主体となりグループでプレゼンテーションを行いました。自分達で文献を読んだり、学生同士で意見を交換したりすることで、日本における社会と世間にについての理解をより深めることができました。また、効果的なプレゼンテーションの方法も学ぶことができました。

フランス語



酒井 直子さん

グローバル文化学コース 2年
長崎県立壱岐高校
フィルハーモニーオーケストラ

小学生の頃から留学に興味を持ちはじめ、1年次のフランス語を履修したのがきっかけで、フランスへの留学を志向になりました。現在は、短期派遣留学に向けてフランス語の授業はもちろん、各種試験にも挑戦しています。昨秋には、公式フランス語資格である DELF の A2 を取得しました。また、学内でのフランス語暗唱コンクールにも参加するなど、フランス語の力を伸ばすために、積極的に活動しています。フランス語を始めて2年弱ですが、このような成果を残すことができるのは、実力から身につき、興味の幅も広がりました。今後は、授業や留学を通して、フランス語の力を向上させたいだけでなく、フランスの歴史や建築について研究しようと考えています。

実践的な授業

日本古代史を専攻しています。演習では『続日本紀』を使用し説教や討論を行い、史料講読では平安貴族の日記を読みます。また、お寺に宿泊し古文書を読んだり寺院を見学する実習もあります。実際の史料を読み解いたり、フィールドワークで理解を深めることができるが大学で学ぶ日本史の魅力です!専門の勉強の他に、異文化の授業に参加して台湾とミャンマーに行きました。皆さんも、自分の関心を深めたり、様々なチャレンジしてください!!



渡邊 唯さん

文化動態論コース 3年
作新学院高等学校
かるた部、居合道同好会



佐藤 翠さん

公共政策コース 3年
山形県立鶴岡北高校
日本経済史ゼミ

日本経済史ゼミ

和達のゼミでは、江戸時代の古文書を解読して当時の人々の暮らしや経済状況などを研究を行っています。研究は勿かりしていながら地域のボランティアに参加したり、研究についての意見交換会をしたりなど元の方と交流する機会がたくさんあります。特に意見交換会では自分たちの研究に対する生の反応が貰えるのでモチベーションが上がり、とてもやりがいを感じます!また、古文書の実物に触れるというのも人生でなかなか無い貴重な体験です。僕にも200年以上の歴史をもつ家への訪問など「フィールドワークも多いのでゼミ活動がとても充実して楽しいです!

鈴木 那菜さん



公共政策コース 3年
宮城県仙台市立仙台高等学校
国際法ゼミ

台湾への交換留学



岩渕 阜朗さん

人間文化コース 1年
岩手県立一関第一高校
軟式野球部

部活動(軟式野球)

自分の所属する軟式野球部は、練習から会計管理まで活動の全てを部員のみで行っています。そんな環境の中で昨年山形大学史上初となる東日本大会出場を果たしました!大会に出場するには多くの費用がかかるということが問題になりましたが、部員自らがアルバイトや募金活動などを主体的に取り組み、無事に大会に出場、そしてベスト4入りという結果を残すことができました!

「主体的に行行動し、課題を解決する」これは大学の学問のあり方とも共通します。授業でも課外活動でも主体性を身につけ人間として成長できる大学とはそんな場所です!!

※学年は平成30年3月時点のものです。

平成29年度 卒業生進路状況

学科名	卒業予定者数	進学予定者数	その他	就職希望者数(A)	就職内定者内訳				就職率B/A
					企業	公務員	教員	計(B)	
人間文化学科	男	38	4	5	29	15	8	2	86.2%
	女	73	3	5	65	41	16	4	93.8%
	小計	111	7	10	94	56	24	6	91.5%
法経政策学科	男	128	3	12	113	64	43	0	94.7%
	女	88	1	2	85	47	36	0	97.6%
	小計	216	4	14	198	111	79	0	96.0%
合 計	男	166	7	17	142	79	51	2	93.0%
	女	161	4	7	150	88	52	4	96.0%
	計	327	11	24	292	167	103	6	94.5%

平成29年度卒業生就職・進学一覧

業種／就職先	人間文化学科		法経政策学科	
	男	女	男	女
建設業	1	2	2	1
(株)一条工務店仙台	0	1	0	0
伊藤建設(株)	1	0	0	0
(株)カナメ	0	0	1	0
(株)タカヤ	0	0	0	1
(株)ユアテック	0	1	1	0
製造業	2	6	6	6
アイリスオーヤマ(株)	1	0	0	0
旭光通信システム(株)	0	1	0	0
(株)アサヒマークティング	0	1	0	0
アスカカンパニー(株)	0	0	0	1
A S E ジャパン(株)	0	0	1	0
エムテックススマツムラ(株)	0	0	1	0
技研(株)	0	0	0	1
(株)小森マシナリー	0	0	1	0
(株)スガサワ	0	1	0	0
太子食品工業(株)	0	0	0	1
TPR工業(株)	0	0	1	0
東北パイオニアEG(株)	1	1	0	1
東北パイオニア(株)	0	0	0	2
トーアエイヨー株式会社	0	0	1	0
日新製薬(株)	0	1	0	0
ニプロ(株)	0	0	1	0
(株)日立ドキュメントソリューションズ	0	1	0	0
電気・ガス・熱供給・水道業	0	1	0	0
山形ガス(株)	0	1	0	0
情報通信業	1	4	9	2
秋田朝日放送(株)	0	0	1	0
アンドロボティクス(株)	0	0	1	0
サイバーコム(株)	0	1	0	0
TISインテック(株)	0	0	1	0
(株)TKC	0	0	1	0
TDIシステムサービス(株)	0	0	1	0
テクノ・マインド(株)	0	0	1	0
東京コンピュータサービス(株)	0	0	1	0
(株)トランスク・コスモス	1	0	0	0
ニューインデックス(株)	0	1	0	0
(株)パスカル	0	0	1	0
(株)マクロミル	0	1	0	1
(株)宮城県農協情報センター	0	1	0	0
(株)山形県JAビジネス	0	0	0	1
(株)山形新聞社	0	0	1	0
運輸業、郵便業	0	2	1	3
(株)ジェイエア	0	1	0	1
第一貨物(株)	0	0	1	0
日本航空(株)	0	0	0	1

平成30年3月5日現在

業種／就職先	人間文化学科		法経政策学科	
	男	女	男	女
杜の都信用金庫	0	0	1	0
明治安田生命保険相互会社	0	0	0	2
(株)山形銀行	0	1	1	0
山形證券(株)	0	0	0	1
不動産業・物品賃貸業	0	2	3	2
(株)秋田住宅流通センター	0	0	1	0
郡中丸木(株)	0	1	0	0
三井不動産リアルティ東北(株)	0	0	0	1
武蔵コーポレーション(株)	0	0	0	1
(株)山一地所	0	1	0	0
山形県住宅供給公社	0	0	1	0
(株)ワールドアシティ	0	0	1	0
学術研究・専門・技術サービス業	1	0	2	1
税理士法人あさひ会計	0	0	1	1
税理士法人深田会計	0	0	1	0
公益財団法人山形県埋蔵文化財センター	1	0	0	0
宿泊業、飲食サービス業	0	3	0	0
加賀屋	0	1	0	0
(株)藏王カンパニー	0	1	0	0
ルートインジャパン(株)	0	1	0	0
生活関連サービス業、娯楽業	2	2	0	1
大江戸温泉物語グループ(株)	0	1	0	0
(株)JTBメディアリテリング	1	0	0	0
(株)JTB東北	0	1	0	0
(株)ジャニーズ事務所	1	0	0	0
(株)ベガスベガス	0	0	0	1
教育、学習支援業	3	5	3	4
山形県教員	2	0	0	0
宮城県教員	0	3	1	1
茨城県教員	0	1	0	0
(株)スクールブルミ工	0	0	1	0
(株)仙台進学プラザ	0	1	1	0
学校法人東北医科薬科大学	0	0	0	1
(株)ナガセ	1	0	0	0
国立大学法人山形大学	0	0	0	1
(株)リヴァ	0	0	0	1
医療、福祉	0	1	1	1
全国健康保険協会	0	1	0	0
日本年金機構	0	0	0	1
公益財団法人湯浅報恩会 寿泉堂総合病院	0	0	1	0
複合サービス事業	1	0	4	2
岩手県森林組合連合会	0	0	0	1
塙釜地区消防事務組合	0	0	1	0
全国農業協同組合連合会	0	0	2	0
大学生活協同組合東北事業連合	1	0	0	0
花巻農業協同組合	0	0	0	1
山形県農業協同組合中央会	0	0	1	0
サービス業	4	7	6	2
(株)アイ・タックル	0	1	0	0
(株)アウトソーシングテクノロジー	0	1	0	0
(株)Wiz	0	1	0	0
(株)エイジック	0	0	0	1
(株)APパートナーズ	0	1	0	0
(株)エス・エム・エスキアリア	0	1	0	0
華陽院	1	0	0	0
(株)サンクス	0	0	1	0
(株)スタッフサービス・ホールディングス	0	0	1	0
東洋ワークセキュリティ(株)	0	0	1	0
(株)トーコンホールディングス	0	1	0	0
日本管財(株)	0	0	0	1
(株)パソナキャリア	1	0	0	0
(株)フォーミュレーションI.T.S.	1	0	0	0
(株)マーキュリー	1	1	3	0
国家公務員	2	2	18	14
公正取引委員会	0	0	0	1
防衛省	0	0	1	1
進学	2	3	2	1
北海道大学法科大学院	0	0	0	1
東北大学大学院教育学研究科	0	1	0	0
東北大学大学院文学研究科	0	1	0	0
宮城教育大学大学院教育学研究科	1	0	0	0
宮城教育大学大学院教職実践研究科	0	0	1	0
山形大学大学院社会文化システム研究科	1	1	1	0